

基準4 教育課程・学習成果(教務部)

関連委員会	副学長、学部長、学科長、教務部、教務委員会、AI・DS教育センター、英語教育開発センター、教職センター
関連部署 (事務部門)	修学支援室、IR・広報室
関連データ(規程)	建学の精神、敬愛大学教育憲章、敬愛大学学則、大学統一DP、カリキュラムポリシー

中期計画2029(MASTER PLAN)

学生の個別の学習成果の可視化を基軸に据えた内部質保証の実質化に取り組む。(中計02ーⅡー1.)
AIを活用できる人材の養成を目指した学部等の改革に取り組み、特色・魅力ある学部教育を推進する。(副専攻AI・データサイエンス)(中計02ーⅢー1.)

1 令和7年度 活動方針・目標(ACTION POLICY)

- (1) 学修成果の可視化のため、①「学修成果の可視化タスクフォース」の設置 ②「システム導入の検討を含む測定・評価の仕組み」の決定 を実施する。【教務部長、修学支援室】
- (2) GPA制度の徹底化と適切な成績評価を全学的に実施する。【教務部長、修学支援室】
- (3) 大学全体で副専攻「AI・データサイエンス」の履修者を増やすとともに、AIを活用するための“特色・魅力ある学部教育”を実施する。【AI・DS教育センター】
- (4) 教職支援を充実させる。【教職センター】
- (5) 英語教育を充実させる。【英語教育開発センター】

2 具体的計画(PLAN)

【教務部長、修学支援室】

- (1) ①「学習成果タスクフォース」の検討結果をうけ、学習成果の可視化につながる施策の検討と実施を行う。
- (1) ②「学習成果タスクフォース」の検討結果をふまえ、「GPSアカデミック」に変わる新たなシステムの導入の検討、さらには「PROG」等の既存システムの検討を行う。
- (2) GPA制度にそくした成績評価の基準の再検討とともに、非常勤教員を含めた教員に対する周知も深める。

【AI・DS教育センター】

(3) 副専攻「AI・データサイエンス」

- a. 本学におけるAI・データサイエンス教育をさらに充実させ、応用基礎レベルの修了者を増やすため、全学生がリテラシーレベルを修了できるように受講状況の詳細な把握と問題点の早期解決、応用基礎レベル修了を目指す学生の支援体制づくり、「ITパスポート」資格対策講座の効果的な実施(開始を後期末から初めに早め授業期間中に終了)を行う。
- b. 実践型AI・データサイエンス教育推進のため、「AI・データサイエンス実践」と「観光マーケティング調査」における県内企業および「AI概論」における大手IT企業による特別講義を実施継続する。
- c. 高大連携をさらに進めるため、敬愛学園高校に加え県内公立高校への出張授業と探求授業支援を実施継続する。
- d. 学習成果の可視化に取り組み、測定や評価の仕組みづくりを行う。

【教職センター】

(4) 教職課程の充実

a. 教採対策

教採1次2次選考対策講座の企画運営、外部委託講座の選定、教採受験説明会、講師登録、(教採合格者数や合格率の高い水準を維持する)

b. 教員養成

実習校訪問、教職個人面談、採用前研修会、英語科・社会科の中高教員養成の充実
(熱意と人間味があふれ、指導力のある教師の育成)

c. 教職卒業生への支援

教職交流会の事務局、年次大会の企画運営、非常勤講師に対する教採支援
(学び続ける教師の輩出と卒業後のサポート)

【英語教育開発センター】

(5) 英語教育の充実

a. 4技能(5領域)にわたる総合的な英語力の向上

英語科目において、「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「書くこと」の言語活動をバランス良く行う。また、授業外での英語学習時間を確保するため、外部機関と連携してeラーニングを実施する。

b. 学習成果の可視化

前期末にTOEIC® L&R IPテスト、後期末にTOEIC® L&R IPテスト及びTOEIC® Bridge L&R IPテストを実施し、スコア分析によって成果と課題を把握する。

c. 教員の指導力向上

英語科目担当教員FD研修を実施し、授業指導及び学修評価の改善を図る。

3 取組状況(DO)

【教務部長、修学支援室】

(1) ①1年次の学習成果の可視化を実施する取り組みを検討している。また、「学習成果タスクフォース」の検討結果を受け、経済、国際両学部においてはこれまで1年次の夏に実施していた「GPSアカデミック」の実施をとりやめた。

(1) ②2026年度より新たなシステムとして、「GAKUEN UNIVERSAL PASSPORT RX 学習ポートフォリオ」を導入することが決定した(4月に経済学部で先行実施、10月には全学部で導入・実施の予定)。さらに、2026年2月のFD研修会で、このシステムの円滑な利用を進めるための講習を実施する予定である。

(2) GPA制度の厳格な実施をはかるべく、秀(S)と優(A)の成績評価の割合について検討した。その結果、講義科目は秀と優の比率は40%以下にすること(教育各部の科目と演習科目は除く)を再確認した。

【AI・DS教育センター】

(3) 副専攻「AI・データサイエンス」

a. 本学のリテラシーレベル修了要件である「AI・DSへのいざない」(前期)は全学必修化済みで単位取得率85.0%。応用基礎レベル修了支援体制づくりの一貫として、「ITパスポート」資格対策講座(計13回)を後期完了の日程に変更して現在開講中。

b. 「AI・データサイエンス実践」と「観光マーケティング調査」における県内企業講義は現在継続中で、「AI概論」における大手IT企業講義(2回)は前期実施済み。

c. 敬愛学園高校へは前期に3回実施済み。県内公立高校への出張授業と探求授業支援は現時点で要請なし。

d. 学習成果の可視化に向けた測定や評価の仕組みづくりは後期中に検討を予定。

【教職センター】

(4) 教職課程の充実

a. 教採対策

教採1次直前講座を6回実施した。昨年度から始めたものだが、今年度からガイダンスをしっかりと行い学生の意識を高め準備を早めにさせた。また、教職センター教員が組織的に取り組めるよう運営した。今年度小学校を受験した教育学部の学生は60名で、合格率100%を達成した。合格者数においても過去最多となった。中高英語科は9名受験し合格率100%を達成した。中高社会科は4名が受験し3名が合格した。2次対策講座も夏休み中に6回、同様に実施し、出席率は80%だった。外部委託講座の選定、教採受験説明会、講師登録は、後期に滞りなく取り組む予定。

b. 教員養成

前期実習校訪問は滞りなく実施済み。教職個人面談は、任意であるが今年度から実施を徹底したことから、一人も漏れることなく実施できた。後期の実習校訪問、採用前研修会も滞りなく取り組む予定。英語科・社会科の中高教員養成は、夏休み期間中も連日指導を行うなど担当教員の熱意もあり充実していた。

c. 教職卒業生への支援

教職交流会(年次大会を含む)の事前打ち合わせにおいて、内容充実を図る案が出され準備が進められている。教採直前講座には非常勤講師をしている卒業生が参加できるよう今年度からHPで周知するようしており、1次・2次どちらにも非常勤講師をしている卒業生が複数名参加した。

【英語教育開発センター】

(5) 英語教育の充実

a. 4技能(5領域)にわたる総合的な英語力の向上

・英語科目の多くを習熟度別クラスで展開。『College English I・III』で4技能(5領域)を統合的に扱う言語活動、『Listening I』、『Reading I』、『Writing I』等で各技能にフォーカスした言語活動を徹底。

・株式会社EnglishCentral(本社米国)と提携し、『College English I』履修者全員がeラーニングを受講。

b. 学習成果の可視化

・7月30日に「前期末TOEIC® L&R IPテスト」を実施。全体平均スコア364.6(昨年度比+7.9)、1年生平均スコア364.3(同+35.3)、2年生平均スコア436.2(同+19.5)、国際学部平均スコア420.5(同+30.5)、教育学部平均スコア311.7(同-3.5)。

・8月27日～9月3日に「夏期集中TOEIC® L&R対策講座」を実施し、全学部より32名が受講。効果測定の結果分析中。

c. 教員の指導力向上

・7月29日に「英語科目担当教員FD研修会」を実施。専任教員9名、非常勤講師3名が参加し、言語活動のアイデアを共有。

4 点検・評価(CHECK)

【教務部長、修学支援室】

(1) ①2026年より新たに導入する「GAKUEN UNIVERSAL PASSPORT RX 学習ポートフォリオ」のデモを試み、学習成果の可視化を支援するシステムとして正式に導入する。

(1) ②2026年2月17日のFD研修会において、「学習成果の可視化タスクフォース」チーフの八木教授による「GAKUEN UNIVERSAL PASSPORT RX～「学習ポートフォリオ」に向けて～」と題した講演を通して、学習成果の可視化に関する見聞を広めた。

(2) GPA制度の厳格な実施をはかるべく、秀(S)と優(A)の成績評価の割合を、それらの和が40%以下にすることに設定した(教育学部の科目と演習科目は除く)。

【AI・DS教育センター】

(3) 副専攻「AI・データサイエンス」

a. リテラシーレベル・応用基礎レベルのいずれも計画を達成できた。特に、応用基礎レベルでは、受講生の3年次前・後期の単位取得状況を把握できるようにしたことと修了見込み証明書発行時期と要件の見直しを行って、支援体制づくりを大きく進めた。ITパスポート講座は受講生が昨年度の19名から29名に増加し、受講生アンケート満足度も比較的高いことから、本資格の認知が高まったと評価できる。

b. 3科目のいずれも前年度と同様に学生の評価が高かった。

c. 敬愛学園高校とは、双方の教員による出張授業前の打ち合わせを重ね、終了後の振り返りと次年度の打ち合わせも行い、生徒へのアンケート実施(授業前と後の2回)と併せて、授業内容のさらなる充実を図ってきた一方で、今年度は県内公立高校からの要請がなく、全般としては高大連携が十分であったとはいえない。

d. 検討を開始し概念整理はできたが、具体的な測定方法や評価の仕組みづくりまではできなかった。

【教職センター】

(4) 教職課程の充実

a. 教採対策

小中高あわせて1次試験を69名受験68名が合格、2次試験を66名受験60人が合格した。小学校は2年連続して1次試験合格率100%、2次試験90%越え(今年度93%昨年度95%)となった。教採合格者数や合格率の高い水準を維持する目標は達せられた。

b. 教員養成

全ての事業が滞りなく実施できた。熱意と人間味があふれ、指導力のある教師の育成に向けて更なる充実した養成に努めていく。

c. 教職卒業生への支援

教職交流会を通じて卒業生との交流や支援を継続して実施できた。卒業生の参加数が年によって変動するので一層の参加を呼びかけたい。

【英語教育開発センター】

(5) 英語教育の充実

a. 4技能(5領域)にわたる総合的な英語力の向上

・世界スタンダードになっているテキスト(例:Cambridge University PressやOxford University Pressのコースブック)及び学生の現状を踏まえたオリジナル教材の使用等により、第二言語習得論に沿った指導が浸透。

・eラーニングで生成AIとのチャット機能を追加し、英語のアウトプット面の学習を強化。クラス間で差異はあるものの、特に上位層の学生は課題達成率が上昇(『College English I・II』Sクラス課題達成率100%以上:(37名中)前期11名/後期8名)。

b. 学習成果の可視化

・「後期末TOEIC® L&R IPテスト」(2/2実施)で、平均スコアが全体361.4(昨年度比+6.8)、1年生343(同+4)、2年生384(同+31)、3年生(同+17)、国際学部430(同+24)、教育学部299(同+30)。国際学部は上昇傾向だが、受験者が増えた教育学部は下落傾向。

・「夏期集中TOEIC® L&R対策講座」(8/27～9/3実施)のTOEIC® L&R IPテストによる効果測定で、10名がスコア20以上上昇(内5名はスコア50以上上昇)し、一定の成果。

・「春期集中TOEIC® L&R対策講座」(2/10～2/18実施)のTOEIC® L&R IPテストによる効果測定で、受験者9名中7名がスコア20以上上昇(内4名はスコア50以上上昇)し、全体的に好結果。

5 次年度に向けた課題(ACTION)

【教務部長、修学支援室】

- (1) ①「GAKUEN UNIVERSAL PASSPORT RX 学習ポートフォリオ」を正式に稼働し、学習成果の可視化につながるような施策を検討し、実施する。
- (1) ②学習成果の可視化の認知度上昇や取組みを活発化させるような研修プログラムを検討、実施する。
- (2) GPA制度の厳格な実施を担保するための施策の検討と実施を行う。

【AI・DS教育センター】

(3) 副専攻「AI・データサイエンス」

- a. ITパスポート講座の課題として、①最後まで受講する学生が少ない(6名/29名)という問題があり、その一因として、1回の分量が多過ぎることが考えられるため、次年度は現行13回を15回に増やす予定である。②自学習の習慣を身につけさせる必要があるが、本講座だけではなく大学全体における課題と捉えて検討する必要がある。
- b. 次年度も実践力を養うための企業による特別講義を継続する
- c. センターの教員数や負担を考慮すると、他校への出張授業は可能な範囲で対応し、次年度も系列高校への授業内容をより高めることに注力したい。
- d. 学習ポートフォリオも参考にしながら検討を継続し、次年度内に測定方法や評価の仕組みづくりを構築する。

【教職センター】

(4) 教職課程の充実

a. 教採対策

小中高あわせて1次試験、2次試験の合格者数や合格率の高い水準を維持する。そのために費用対効果に基づき外部委託講座を見直すとともに、教採対策講座の一層の充実を目指す。

b. 教員養成

教職センター指導教員の総力を挙げて、指導力のある教師の育成に取り組む。そのために力量を高める新たな講座を設置して、教員養成の一層の充実を目指す。

c. 教職卒業生への支援

長時間労働や不登校対策など深刻な課題に直面している現場の教員を支援する。そのために教職交流会の周知と参加者増につながる試みを実施して、卒業後のサポートに一層の充実を目指す。

【英語教育開発センター】

(5) 英語教育の充実

a. 英語力の向上

- ・英語各科目での指導に加え、授業外で取り組むeラーニングのより一層の充実。
- ・「夏期・春期集中TOEIC® L&R対策講座」の効果(これまでの成果)を周知することによる受講者数(特に、情報マネジメント学部及び経済学部)の増加(目標受講者数:各講座20名程度)。

b. 学習成果の可視化

- ・TOEIC® L&R IPテストのスコア上昇(目標平均スコア:全体370、国際学部440、教育学部310程度)。

c. 英語教育における小・中・高・大の連携強化

- ・応募者数(今年度38名)が増加傾向にある「Keiai Cup高校生英語スピーチコンテスト」の効率的な運営。
- ・「英語教師授業力ブラッシュアップセミナー」の参加者数(今年度一般参加者37名、本学学生30名)の拡大。